

第2章

今後のまちづくりの方向性

1 基本的な考え方

(1) 「今後のまちづくりの方向性」の位置づけ

「今後のまちづくりの方向性」は、政策推進ビジョンがめざす「大都市、そしていちばん住みたいまちへ」という目標を実現するため、さまざまな活動が展開される場となる都市空間について、「大阪市基本計画 2006-2015」に示す「都市空間の形成」の考え方を踏まえ、中期的に取り組むまちづくりの方向性を取りまとめたものです。

まちづくりの基本的な考え方としては、まず「住む」「働く」「楽しむ」「学ぶ」など「暮らし」のあらゆる場面で、人々がその能力を最大限に発揮できるよう、質の高い「暮らし」の空間をつくっていくことをめざします。そして、「文化」「環境」を基盤としながら、市民・NPO・企業などの皆さんによるまちづくりと協働して、豊かな個性を活かした特色ある地域が連なる都市としての魅力と、機能性や利便性など大都市としての魅力を兼ね備えた、大阪ならではの多彩で厚みのある都市づくりを進めます。

(2) 都市空間の形成について

都市空間の形成については、次の考え方をもとに進めます。

- 水・緑のネットワークなどの環境資源を活かしたアメニティ豊かな空間形成を図るとともに、低炭素社会に向けた持続可能な都市環境づくりを進めます。
- 地域が継承してきた歴史・文化資源を活用した個性溢れるまちづくりや、大都市でしか味わえない多彩な文化・芸術にふれられるまちづくりを進めます。
- 地域の特色ある産業集積などを活かした活力ある地域づくりを進めるとともに、企業・大学・研究機関などの集積を活かし、人が集い、創造性を発揮して付加価値の高い産業・ビジネス・文化を生み出す交流空間の形成を図ります。
- これまで培ってきたアジア諸都市とのネットワークを活かして、成長著しいアジアとの交流・交易機能の充実を図ります。
- 豊かな暮らしを支える道路などの都市基盤施設の維持・更新や高質化を図るとともに、広域的な視点から交通ネットワークの充実について関係者と協調した取組みを行います。

(3) 都市の構造等について

市域全体としては、これまで形成してきた南北・東西の都市軸を骨格とする都市構造を新しいまちづくりの土台として、都市機能を充実していきます。

- 都市再生緊急整備地域を中心に、経済・産業、文化、学術など高度な都市機能をより充実させ、南北軸の強化を図ります。
- 東西軸についても、京阪中之島線や阪神なんば線の完成などを活かして強化を図るとともに、川筋などの水・緑のネットワークや文化・集客・歴史などの資源を活かして都心と臨海部をつなぐ文化・環境軸としての魅力も備えた充実を図ります。
- 臨海部については、都心部で高度な業務・商業機能等がより集積する一方で、大阪湾岸部では生産機能が進展していることを踏まえ、物流機能を活かした高付加価値ものづくりを支える広域的なネットワーク拠点として機能の充実を図ります。

2 土地利用の考え方と主な取組み例

(1) 都心機能整備エリア^(注1)

都心部では、国内外から多様な知識が交流・融合して新たなビジネス・文化を創出する拠点づくりとともに、文化・芸術の集積や水・緑の豊かな環境・景観を活かした風格のあるエリア、歴史・文化・産業などの地域資源を活かした個性溢れる界限づくりに取り組み、質の高い暮らしや多様な魅力を体感できるエリアが連なる広がりや厚みを持つ都心への再生をめざします。

(取組み例)

- 大阪駅北地区を関西圏の知識交流のハブとして、ロボット・テクノロジーや情報通信技術・環境といった先端技術や感性・感覚、学習・教育など様々な分野の先端的なナレッジ(知識)の集積を通じて、次世代を担う都市型産業・ビジネスを創出し続ける拠点となるよう誘導します。こういったナレッジ・キャピタル(知的創造拠点)を中心に、JR東海道線支線の地下化など都市基盤の充実を図りつつ、活力とにぎわいにあふれ、水・緑を活かし環境負荷を低減した先駆的な都市づくりに取り組みます。
- 中之島地区では、中之島公園の再整備や東西をネットワークする快適な歩行環境の整備を進めるとともに、光による魅力的な夜間景観の創出や公開空地^(注2)等でのストリートミュージシャン活動の推進など、市民が集い、歩いて楽しく、にぎわいのある空間づくりを進めます。また、西部地区において、近代美術館の整備に向けた検討を進めるとともに、民間活力を導入した国際・情報・文化ゾーンにふさわしい都市づくりを誘導し、ハード・ソフト両面から多様な文化が味わえる文化都心・中之島をめざします。
- 世界的なエンターテインメントを上演できる劇場を備えた中央郵便局の開発誘導や厚生年金会館ホール機能の継承への取組みなどを通じて、四季劇場、フェスティバルホール、なんばHatchなど梅田～中之島～難波・湊町に連なるエリアを多様な文化・芸術を味わえる魅力ある都心として誘導していきます。
- 御堂筋では、国・民間などと協働し、快適な歩行環境づくりや淀屋橋・本町地区のにぎわい拠点づくりなどのほか、イベントの開催等による活性化にも取り組み、優れた景観を持ち世界に誇れる風格のあるシンボルストリートとしてさらに充実を図ります。
- 船場や扇町など成熟した市街地では、コンテンツ^(注3)、ファッション、デザインなど地域での産業動向を踏まえながら、付加価値の高い創造的産業を創出するエリアとして充実を図ります。さらに、HOPEゾーン事業^(注4)など、近代建築の活用をはじめ歴史・文化・自然などの地域資源を活かした市民・企業等の方々によるまちづくり活動と協調した取組みを進めます。こうした取組みにより各々の地域を個性溢れる界限へと再生し、魅力ある都心居住とあわせて職住遊学の質の高い暮らしが実現できる都心をめざします。

(注1) 都心機能整備エリア：別図「大阪市基本計画 2006-2015」における土地利用構想図参照。

(注2) 公開空地：建物の敷地内に、市民に公開する広場・植栽等を設けたもので、建築物の容積率や高さ制限を緩和する総合設計制度の許可条件となっている。

(注3) コンテンツ：放送やネットワークで提供される映像、音声、テキストなどの情報の内容をいう。広義には映像、ゲーム、デジタルアートなどが含まれる。

(注4) HOPEゾーン事業：特色ある居住地の形成をはかるため、歴史的・文化的な雰囲気等に恵まれた地域を、大阪の居住地イメージを高めるゾーン(HOPEゾーン)として位置付け、地域住民と協力しながら、伝統的な様式の建物の修景などによるまちなみ整備の誘導や、地域魅力の情報発信などを行う事業。

(2) 臨海機能整備エリア^(注1)

大阪の強みである高付加価値ものづくりの重要性が高まるとともに、アジアとの交易が増大する中、臨海部では、市内に残された広大な利用可能な土地、港湾・空港・高速度道路ネットワークなどの都市基盤、充実したアジア諸都市とのネットワークを活かす観点から、テクノポート大阪計画^(注2)を見直し、成長著しい南・東アジアとの交流・交易拠点として、高付加価値ものづくり産業の発展を支えるまちづくりをめざします。

(取組み例)

○夢洲先行開発地区^(注3)は、高付加価値ものづくりや効率的な物流を実現する受け皿となる産業・物流ゾーンとして、効果的な誘致戦略などにより土地利用を促進し、将来開発地区^(注4)は、大阪湾岸地域の中長期の需要に対応した段階的土地利用を図ります。

○咲洲コスモスクエア地区では、ものづくり企業等に対する商談の機能を強化するため、インテックス大阪の機能・規模・配置やアジアとのビジネス交流機能の強化を検討します。

また、利用可能な用地の企業立地の促進については、助成制度の充実を図り、高付加価値生産機能と関連した製品開発型研究施設等の立地誘導を図ります。

さらに、まちの魅力の向上を図るため、にぎわい創出や安全・安心などの観点から、交通利便性の向上につながる取組みや、R岸壁^(注5)のフェリーターミナル化を推進するとともに、中長期的にその背後地の土地利用のあり方を検討します。また、ペDESTリアンデッキ^(注6)の整備など地区全体で歩車分離など歩行者環境の改善や大型車の渋滞緩和に資する取組みを進めます。

○在来臨海部^(注7)において、比較的規模の大きな製造業の事業所等が集積する一方で、住宅等が混在してきた市街地などでは、居住環境等と操業環境との両立を図りながら生産機能の維持・強化に努めます。

(注1) 臨海機能整備エリア：別図「大阪市基本計画 2006-2015」における土地利用構想図参照。

(注2) 大阪テクノポート計画：国際化・情報化が進む中で昭和 63 年に基本計画を策定した、臨海部の咲洲・舞洲・夢洲に新しい都心の形成を図る構想。

(注3) 夢洲先行開発地区：夢洲（約 390 ヘクタール）のうち、早期に土地利用が可能になる区域（約 140 ヘクタール）。（別図臨海機能整備エリア参照）

(注4) 将来開発地区：夢洲のうち、先行開発地区を除いた地区（約 250 ヘクタール）。（別図 臨海機能整備エリア参照）

(注5) R岸壁：これまで公共用コンテナターミナルとして利用してきた港湾施設。（別図 臨海機能整備エリア参照）

(注6) ペDESTリアンデッキ：高架等によって車道から立体的に分離された歩行者専用の通路。

(注7) 在来臨海部：大阪市域の西部に広がる臨海地域のうち、沖合に位置する咲洲（南港）、舞洲、夢洲の新臨海部を除くエリアで、主に昭和 30 年代以前に埋め立てられた地区。

(3) 住環境整備エリア^(注1)

住環境整備エリアでは、地域が持つ歴史、文化、水・緑などの自然や都市景観などの資源を活かして、市民・企業等の皆さんと協働して魅力ある居住地づくりを図るとともに、地域コミュニティの再生や防災性の向上を図ります。また、住宅や事業所などが混在する地域では、ものづくりなどの地域の産業力を活かした住工共存型のまちづくりをめざします。

(取組み例)

- 都市景観資源の発掘や、町家などのまちなみ、商店街、自然環境といった地域資源を活かして住民等の方々が行う自主的なまちづくり活動を支援する機能の充実などを通じて、地域の持つ個性を活かし住んでみたいと思う良好な住宅地の形成を図ります。
- 安全・安心な公園づくりや、地域住民による防犯パトロール活動の支援などの市民協働を基本とした各種防犯施策を地域安全対策推進モデル区^(注2)で実施するなど、犯罪発生件数を減少させ、安心して暮らせるまちづくりを推進します。
- まちかど広場^(注3)や防災コミュニティ道路^(注4)を市民協働で整備するなど不燃化の促進や平時を含めた地域コミュニティを再生するとともに、狭あい道路等の拡幅や老朽住宅等の建替えを促進し、老朽住宅密集市街地における防災性や住環境の向上を図ります。
- 活力のある大阪らしいまちづくりを進めるため、東部地域などで見られる住宅と中小製造業等の事業所が混在する市街地では、職住が近接し地域の活力を支える事業所と地域とのコミュニケーションを高めるなど、住工等の共存をめざします。

(注1) 住環境整備エリア：別図「大阪市基本計画 2006-2015」における土地利用構想図参照。

(注2) 地域安全対策推進モデル区：市民協働を基本とした防犯対策を特に集中して推進する区。
(平成20年12月 東淀川区、東住吉区、平野区を選定)

(注3) まちかど広場：地域の防災力の向上やコミュニティの活性化などを目的とする身近なオープンスペースとして住民参加によるワークショップ形式で整備する広場。

(注4) 防災コミュニティ道路：災害時の延焼遅延や避難・消防活動の円滑化を図る役割を担うことをめざして、地域住民によるまちづくり協定等が締結された主要生活道路。

(4) エリアを越えた市域全般での取組み

中長期的な観点からエリアを越えた市域全般に係るまちづくりのムーブメントとして、水と緑のネットワークなどの環境資源を活かした空間形成の取組みなど、「文化」「環境」を基軸とした各種の取組みを展開します。

(取組み例)

○「風の道」の展開

ヒートアイランド現象^(注1)を緩和するために、長堀通においてモデル的に温度低減効果のある舗装の実施や中央分離帯への高木植栽の推進、市民の皆さんと協働して沿道の公園における森づくり等に取り組みます。その効果を踏まえて東西方向の幹線道路を中心に総合的な対策を行い、周辺市街地より気温の低い緑陰豊かな公園緑地等や河川空間とネットワークさせることにより、瀬戸内海から吹く涼しい海風を内陸部まで運び、気温を下げる「風の道」をつくります。

○「海の御堂筋」構想

大阪城、中之島から安治川を経て海に至る川筋を、御堂筋に匹敵する水を中心とした東西のシンボル軸と捉え、その沿川における近代大阪発展の歴史的ストックや文化・集客資源等も活かし、市民等の皆さんとともに歴史・文化や環境を基調にした海と都心をつなげる新たなまちづくり「海の御堂筋」づくりをめざします。中之島での文化機能の充実や中央卸売市場における水辺の遊歩道・船着場の整備促進をはじめとして、舟運によるにぎわいづくり、安治川沿いのビジョンづくり、川口地区での水辺のまちづくりの誘導などを図ります。

○「大阪パークフロントまちづくり」

緑やオープンスペースを活かして魅力的な都市空間を創出するため、公園緑地、水辺空間、公開空地等の公共的空間を周辺街区に開かれた構造とするとともに、周辺街区においては、公共的空間と調和した建物等の空間形成・利用が図られる「パークフロントまちづくり」をめざします。

(注1) ヒートアイランド現象: エアコンや自動車の使用等による人工廃熱やアスファルト等の人工被覆の増加、緑地や河川などの自然空間の喪失により、都市の気温が郊外に比べて高くなる現象。